

【報告】第66回 中国・四国地区高等学校PTA 連合会大会 高知大会

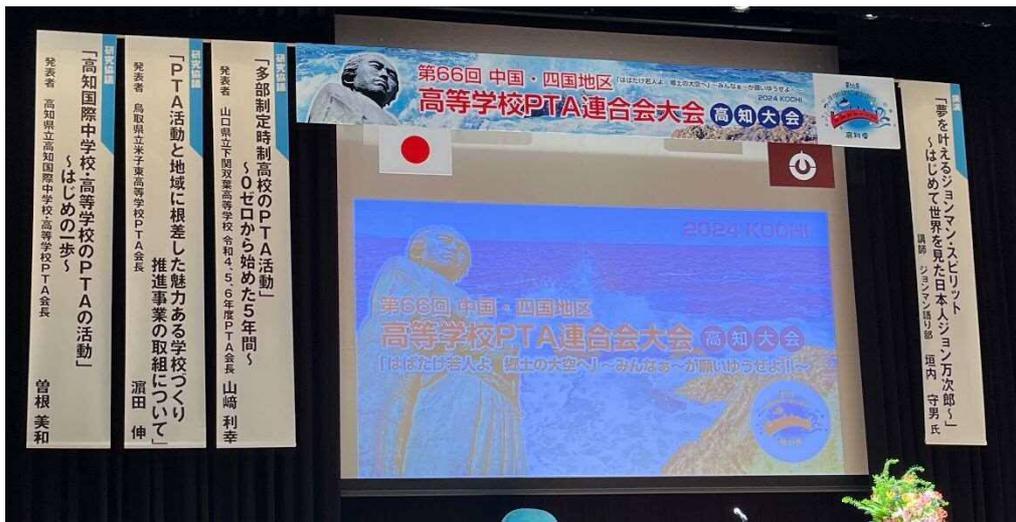
参加者 PTA会 長 澤 享

PTA 副会長 堂前 靖彦

PTA 副会長 福山 洋

令和6年7月12日(金)に高知県立県民文化ホールにて標記大会が開催され、鳥取東高校PTAからは3名が参加しました。

本大会は毎年中国・四国の各県が輪番で大会を運営しており、担当となった県のPTA 連合会が招待した講師による講演、高校生による学校内での活動、中四国内の高校のPTA 活動発表が行われます。



以下に今年度開催された講演・発表内容について報告します。

【講演】

演題「夢を叶えるジョンマン・スピリット」～初めて世界を見た日本人 ジョン万次郎～

講師 ジョンマン語り部 垣内 守男氏 (公益財団法人高知県文教教会 理事長)



ジョン万次郎には3つの時代があった。

- ① 体験時代（14～24 歳） 無人島～アメリカへ
- ② 実践時代（24～34 歳） 武士身分、咸臨丸（かんりんまる）航海
- ③ 貢献時代（34～44 歳） 英語教育、航海術、開成学校教授（東京大学の前身）

これらの時代で「あきらめない」「投げ出さない」「人の役に立つ」を経験した。

① 体験時代

14 歳の時に初漁に出た際、荒天に見舞われ漂流し無人島にたどり着いた。

無人島では住み着いていた渡り鳥を食べ生きながらえていた。4か月後アメリカの航海船ジョン・ハラウンド号が通りかかり声を上げたが気付かれなかった。あきらめきれず見えなくなった後も島裏まで探し続け、停泊しているジョン・ハラウンド号を見つけた。

この時に「あきらめない」ことを学んだ。

その後、ジョン・ハラウンド号に乗りアメリカに渡った。（16 歳）

アメリカでは、働きながら学校に通った。いろいろな苦難があったが、それでもアカデミートップで卒業した。この時に「投げ出さない」ことを学んだ。

卒業後、フランクリン号に給仕係として乗船した。当初は他の船員から煙たがられていたが、航海中の万次郎の仕事ぶりから信頼を得る様になり、船長が病気で離脱後、船員の投票により副船長となった。3年後帰港した。この時に「人の役に立つ」ことを学んだ。

24 歳の時に日本に帰国。

② 実践時代

日本では、アメリカで見た先進文明を伝えた。

その内容をまとめたものが漂異紀畧（ひょうそんきりやく）としてまとめられた。

また咸臨丸（かんりんまる）に乗り航海に出て、アメリカ時代の航海術で航海を乗り切った。

③ 貢献時代

開成学校の教授になり英語教育、航海術を教えた。

最後に講師の垣内氏より、「3D 言葉を捨てて 3C 言葉を」という内容の話がありました。

3D とは「でも、だって、だけど」

3C とは「chance 、 change 、 challenge」

3C で前向きな気持ちになると思います。

「3D 言葉を捨てて 3C 言葉を」という言葉で締めくくられました。

【Get your Spirit for the Future!】



【高校生による発表】

高知県内の高校による活動発表がありました。

○高知県立高知丸の内高等学校

「ふるさと」や「夕焼け」など数曲の合唱や、男子高生によるバイオリン演奏がありました。

○高知県立高知農業高等学校

企業との共同研究や、ICTを使った新しい農業への取り組みについて説明がありました。

民間企業と高知大学の研究機関との連携を図って、ICTを使った新しい農業への取り組みとして、IoTにより環境情報や生体情報などのデータを自動収集し、データ分析および活用する方法を日々研究し、農業のDX（デジタルトランスフォーメーション）を実現する為の取り組みが紹介されました。

○高知県立大方高等学校

南海トラフについて2012年に内閣府より発表された津波予想（34.4m）を受け、高校生が主体となって「犠牲者ゼロ」を掲げた町ぐるみの防災訓練の取り組みが紹介されました。

取り組み当初、高齢者の間では、津波対策としては「ほぼ諦め」との意識が主だったとのこと。そこで京都大学の研究機関と企業で共同開発されている「ニゲトレ（防災アプリ）」を活用し、避難経路や避難場所などの提案を行った上で、高校生自ら高齢者の手を引き実践的に避難訓練に参加することで、それまでの諦め感が「高校生がいれば生き延びられる」との思いに変容する等、大きな意識改革につながられた、との成果報告もありました。

この活動により、当初諦めていた地域住民の考えも変わってきたとのことでした。

○高知市立高知商業高等学校

「国際協力」と「地域貢献」を目的とした模擬株式会社を立ち上げ、全校生徒・保護者・教職員が株主となり活動を行っています。

取り組みとしては、「ラオス学校建設活動」「ジビエの利活用・商品化・販売」の2つについて紹介がありました。

「ラオス学校建設活動」では実際にラオスを訪問して、現地の民芸品などの商品を調達・販売し、その販売利益を学校建設資金に充てることで、この30年間の活動を通して、9校もの小学校や保育園を開設した実績が紹介されました。

【研究協議】

中四国の3校によるPTA活動報告がありました。

○山口県立下関双葉高等学校

開校して5年の学校で、昼間・夜間部と2部に生徒が在籍しており、普段顔を合わせる機会がない生徒や保護者がいます。そんな中でPTAを立ち上げ、卒業式の時に写真撮影用のフレームを作成するなど「できることをできるだけ」を合言葉にした活動の紹介がありました。

○鳥取県立米子東高等学校

進路セミナーや広報誌発行などの各専門部の活動紹介がありました。

また学校図書館開放事業として授業日には午後7時まで、土日祝日では午前9時から午後5まで開放していました。

○高知県立高知国際中学校・高等学校

進路セミナー、交通安全指導、生徒会ユニセフ支援活動のバザーや広報誌発行等の活動の報告がありました。

【その他】

会場のエントランスホールでは、高知県内の高校生が製作したお菓子やジュース等の販売がありました。

【感想】

わが子と同じ高校生が、自ら考え、自ら提案し、自ら行動した活動内容とその成果を聞いて関心したと同時に、感動すら覚えました。

鳥取東高では「文武両道」を掲げ、生徒たちは日々勉強や部活動に全力で取り組んでいます。

「地域貢献」という視点でも積極的に取り組んで、何か成果をあげることで、それが自分たちの自信に繋がるような活動に、PTAも一緒になって取り組むことが出来れば、子ども達にとって、より意義のある高校生活になるのではないかと感じました。

これからもPTA活動のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

